

医学の発展に貢献した人々

私は、小学校の頃から歴史が大好きな51歳です。先日、今の小学校の社会の教科書を目にする機会があり、内容が大きく変わっていることに気づきました。



新しい江戸時代のみかた

僕は江戸時代の身分制度は、「土農工商」と身分に序列があるように習いました。しかし、今の教科書では次のように書いてあります。

江戸幕府のもとでは、武士が世の中を支配する身分とされ、名字を名のり、刀を差すなどの特権を認められました。百姓や町人は、武士の暮らしを支える身分とされました。それぞれの身分の中でも上下関係が細かく分かれていました。(中略)

さらに、町人や百姓と区別され、差別された人々もいました。これらの人々は、住む場所や服装、他の身分の人々との交際などを制限されました。

しかし、厳しい差別を受けながらも、荒地を耕して年貢を納めたり、すぐれた技術を使って人々の

ました。

みなさんはこのように習ったと思います。私もそうでした。歴史の研究が進んだ今の教科書では、さらに詳しく書かれています。

解剖の見学(想像図)



このとき、すぐれた技術や知識を生かして解剖を行い、人体の説明をしたのは、当時、百姓や町人とは区別され、厳しい差別を受けていた人でした。

医師 杉田玄白の驚き

昔は、医学といえば漢方薬による治療が一般的で、医者であっても人体の知識はあまり持っていませんでした。医者であった杉田玄白は、オランダ語で書かれた医学書を手に入れ、人体の解剖(腑分け)を見学しました。玄白らは、オランダ語で書かれた医学書と人体の構図が同じであることを知り、その正

生活に必要な用具をつくったり、役人のもとで治安をにったりして、社会を支えました。また、古くから伝わる芸能をさかんにして、後の文化にも大きな影響をあたえました。

このように、江戸時代は武士が世の中を支配する身分とされ、商人と百姓は支える身分だったとされています。

さらに、町人や百姓と区別され、差別された人々については、「悲惨」で「貧しい」姿だけでなく、厳しい差別を受けながらも、社会を支えた姿を学ぶことができるようになっていきます。

教科書の記述が変わったのは、「身分制度」についてだけではありません。

「解体新書」

みなさんは杉田玄白という名前を聞いて何を思い出しますか？

江戸時代に、オランダ語で書かれた人体解剖書「ターヘルアナトミア」を手に入れ、日本語に訳し「解体新書」という医学書を書きました。解体新書は、「日本最初の西洋医学の翻訳書」と言われています。当時はオランダ語の辞書もなく、翻訳は大変な仕事でしたが、玄白たちは3年半ほどもかかって完成させ

確かに驚きました。

この腑分けの時、優れた知識や技術を生かして解剖を行い、これは心臓・これが肝臓・胆のう・これが胃と臓器の説明をしたのは、百姓や町人と区別され、厳しい差別を受けていた名もなき人でした。当時、貧しく、劣っていると思わされていた被差別身分の人が解剖の技術や知識をもっていたことも、玄白たちをさらに驚かせたのです。

解体新書の完成以降、日本の医学が発展していきます。腑分けを行った人の言葉に耳を傾け、偏見を乗り越えて真実の探求に力をつくした杉田玄白だけでなく、見事な解剖術と知識をもった人々の存在が、近代日本の医学の発展を支えたのです。

このように、差別をうけてきた人々が、知識と技術を持ち、医学や文化の発展に貢献したことを学ぶことで、真実の歴史が見えてくるのではないのでしょうか。

新たな事実を知り、これまでの考えの間違いに気づきます。これも、歴史を学ぶ楽しさだと思います。

